



新病院に向けて

管理局長から

リレーメッセージ



～生まれようとする新病院。準備業務は本格化しています。～

大きな卵の殻を破って生まれようとしている「尼崎総合医療センター(仮称)」。これをイメージした新病院のポスターや看板を駅で見かけた方もおられるかと思います。

今まさに、新病院は、鉄骨工事が11階まで立ち上がり、いよいよその姿を現しつつあります。

また、建設工事と平行して、医療機器・医療情報システムの導入、各部門の運用計画づくりなどを進めており、開院準備業務は、ハード・ソフト両面にわたり本格化しています。

新病院は、大規模な高度救急・専門医療の提供、患者さん本位の施設整備、大規模地震等災害時への対応等々様々な特徴を持っており、未来への夢と希望がたくさん詰まっています。

2病院の統合という大きなプロジェクトだけに課題も多くありますが、地域に親しまれ信頼される病院を目指して、尼崎・塚口両病院の職員は、連日会議を重ね、活発に議論しながら検討を進めているところです。

生まれようとする新病院への皆様のご期待に応えることができるよう、管理局長として総合的な調整を行いながら精一杯取り組んでいきたいと思っています。

県立尼崎病院 管理局長 中山嘉久



仕上げの1年

新病院完成まで残すところ、あと1年になりました。

塚口病院は、地域の皆様に育まれながら、昭和28年の開院以来60年の長きにわたって医療を提供してきましたが、統合への数年間の準備期間を経て、いよいよ仕上げの段階に入ったわけです。

新病院は、災害に強く誰もが利用しやすい建物と最新の医療機器、効率的なシステム、充実した医療スタッフを備え、機能・サービスが大きく向上することになります。いま、それを実現するため、塚口・尼崎両院のスタッフが毎日のように互いに行き来しながら、熱い議論を交わし、詰めを行っているところです…室温がこれまでになく上がっているように感じるのも、あながち気のせいとばかりはいえません。

これから新病院開院までは、準備作業の連続になりますが、皆様のご協力のもと、地域医療の拠点として無事“大輪の花”が咲くことを念じながら、スムーズな移行をめざし努力してまいります。どうぞよろしくお願いします。

県立塚口病院 管理局長 三輪 真



次号予告

次号は、「県立尼崎病院 平山ミツヨ 副院長 兼 看護部長」、
「県立塚口病院 箕浦洋子 副院長 兼 看護部長」のメッセージです。



兵庫県立尼崎総合医療センター(仮称)
Facebook ページを開設しています。

兵庫県立尼崎総合医療センター フェイスブック

検索



Find us on

Facebook



してね!



編集後記

この6月より新しく巣立った新広報誌「あまが咲だより」は、
如何ですか?この時期になると軒先で見かけるツバメ達の「巣
作り・ひなの誕生・巣立ち」ですが、我々も、来年の新病院開院に
向けて、今、患者さまから信頼される病院造りに取り組んでいます。来年の今頃には、皆さんに
高度医療の提供をきっかけ、地域に羽ばたきたいと思います。(尼崎病院 HS)



兵庫県立尼崎病院

〒660-0828 兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号
TEL 06-6482-1521(代表) FAX 06-6482-7430
http://www.amahosp.amagasaki.hyogo.jp/

兵庫県立尼崎病院

検索



兵庫県立塚口病院

〒661-0012 兵庫県尼崎市南塚口町6丁目8番17号
TEL 06-6429-5321(代表) FAX 06-6422-7405
http://www.tsukaguchi-hospital.net/index.html

兵庫県立塚口病院

検索

発行 兵庫県立尼崎病院 兵庫県立塚口病院
企画協力・デザイン・印刷 兵田印刷工業株式会社

地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2014.7.

No.2

県立尼崎総合医療センター(仮称)

【各部紹介】

循環器内科
心臓血管外科
小児循環器内科

新病院に向けてリレーメッセージ
管理局長から

コラム

誤解しやすい病院の言葉



武庫大橋(国道2号線)と
武庫川



兵庫県立尼崎病院

兵庫県立塚口病院



心臓
センター

循環器
内科

国内最高水準の 総合循環器内科

当科では、国内最高水準の循環器内科医療を総合的に提供しております。新病院では集中治療室も16床 配置しており、さらなる高度医療の提供及び救急医療体制の充実を図ります。狭心症、不整脈アブレーション、大動脈ステントグラフトなどの治療については、専門医が最高の技術をもって対応しております。また、国内外で多くの学会発表、論文発表などを行っており、日本語・英語の論文は200本以上出しています。新薬の海外同時試験も多く行っています。

県立尼崎病院 循環器内科科長

佐藤 幸人

京都大学臨床教授・日本内科学会指導医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本心不全学会評議員(心不全予防委員)
日本心臓病学会評議員(学会誌副編集長)
日本循環器学会急性心不全治療ガイドライン委員
日本循環器学会心臓移植適応検討小委員会委員
兵庫県看護協会 慢性心不全認定看護師教育課程講師

県立塚口病院 循環器内科科長

北 祥男

日本内科学会認定総合内科専門医、指導医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本心臓病学会特別正会員(FJCC)
日本内科学会評議員
大阪医科大学臨床教授

循環器内科の紹介

心血管病変の早期診断

低被爆冠動脈CT、心エコー、心臓核医学検査などを用います。

救急、集中治療

救急は24時間受けており、低体温療法、大動脈内バルーンポンピング、経皮的心臓補助装置などの高度医療を行います。

カテーテル治療

薬剤で対応不可能な狭心症、閉塞性下肢動脈硬化症、大動脈瘤、不整脈に行います。術者は学会専門医、指導医です。

予後改善への取り組み

心臓リハビリテーション、多職種チーム医療を行っています。

対象とする疾患

狭心症

薬剤投与とともに高度なカテーテル治療を行います。

閉塞性下肢動脈硬化症

薬剤で対応不可能な場合、カテーテル治療を行います。

胸腹部大動脈瘤、大動脈解離

外科手術の適応でない場合、カテーテルによるステントグラフトを行います。高度な技術を用いています。

不整脈

心室性不整脈、上室性頻拍、心房細動などで薬剤抵抗性の場合、カテーテルアブレーションを行います。高度治療も行っています。

心不全

薬剤治療と並行して心臓リハビリテーション、多職種介入を行います。



後列左から：後藤医師、北医師
前列：鷹津医師



三列目左から：山本医師、宮崎医師、中山医師、宮田医師、小林医師、佐賀医師
二列目左から：辻医師、堀田医師、柴医師、稲佐医師、四宮医師、井村医師、蔵垣内医師
一列目左から：福原医師、谷口医師、宮本医師、佐藤医師、鷹津医師、当麻医師、古谷医師

心臓
センター

心臓血管
外科

新生児から高齢者まで、 あらゆる心臓の病気と闘います

心臓血管外科は、昭和43年の開設以来、本邦における循環器疾患の外科治療をリードしてきました。特徴は、新生児から高齢者まで全年齢層において、先天性及び後天性心疾患、大血管疾患、末梢血管疾患など、およそ全ての循環器疾患を対象にしていることです。新病院では、塚口病院の小児科、産科と統合し、周産期医療の充実が見込まれます。今でも24時間緊急対応を行っていますが、今後救急部門が整備されるため、成人の急性心疾患に対してもこれまで以上に迅速な対応が可能になります。

県立尼崎病院 心臓血管外科科長

藤原 慶一

●専門診療分野:先天性心疾患全般
心臓血管外科専門医、心臓血管外科修練責任者
外科専門医、循環器専門医、外科学会指導医



県立尼崎病院 心臓血管外科部長

大野 暢久

●専門診療分野:成人心臓血管手術全般
心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導者
外科専門医



後列左から：吉澤医師、石道医師、川崎医師、村山医師、羽室医師、夫津木医師
松岡医師、福熊医師、榎野医師
前列左から：藤原医師、大野医師

診療内容の紹介

先天性心疾患と成育医療

複雑な心疾患の手術件数が多く、いずれも良好な成績を上げています。成人期以降に、先天性心疾患特有の内科的フォローや追加治療が必要になる症例が増加しており、小児循環器科と密接に連携して育成医療を行っています。

後天性心大血管疾患と低侵襲治療

高齢ハイリスク症例や、就労年齢で早い社会復帰を望まれる若年症例に対し、体に優しい低侵襲治療に取り組んでいます。オフポンプ冠動脈バイパス術、内視鏡を併用した小切開弁膜症手術、大動脈瘤のステント治療等は既に取り組んでいます。新病院のハイブリッド手術室では、大動脈弁狭窄のカテーテル治療を行う計画です。

対象とする疾患

先天性心疾患では、完全大血管転位や総肺静脈還流異常などの複雑心奇形が多く、心房中隔欠損や心室中隔欠損疾患に対しての小切開手術の経験も豊富です。また、成人先天性心疾患に対する外科治療や経過観察例が多いのは当科の特徴の一つです。
後天性心疾患では、狭心症に対する冠動脈バイパス術、心筋梗塞での心室中隔穿孔や心破裂などの緊急手術、僧帽弁閉鎖不全の弁形成や大動脈弁狭窄に対する弁置換術などを行います。ハイリスクで手術が困難な大動脈弁狭窄例には、最新のカテーテルによる人工弁留置術の導入を新病院で予定しています。

小児
循環器
内科

胎児から大人まで一貫した 高度な成育医療

当科では、重症の先天性心疾患例を胎児期から管理し、心臓血管外科とのチーム医療で、良好な治療成績を収めています。また、当科は昭和43年開設の古い歴史を持ち、キャリアオーバーした成人例の管理・治療の経験も豊富です。新病院では、従来通り心臓血管外科、循環器科とタッグを組み、さらに小児科、産婦人科、各種専門科と連携することにより、胎児から大人まで一貫した高度な成育医療が実現します。

担当する主な検査と治療

心臓カテーテル治療

年間50件以上の治療(アブレーションを含む)を行っています。新病院では、ハイブリッド手術室が新設され、心臓血管外科とのコラボレーションにより、高度な心臓カテーテル治療が可能となります。

胎児心エコー検査

重症先天性心疾患は、妊娠18週から胎児心エコー検査により診断できます。新病院では、胎児期から診断・管理し、出生直後から高度な治療を行えるようになり、重症心疾患例の治療がさらに充実します。

対象とする疾患

昨年、外来受診した先天性心疾患症例は1775例で、心室中隔欠損(688例)や心房中隔欠損(420例)などの単純短絡疾患から、ファロー四徴症(203例)、完全大血管転位、単心室や総動脈幹遺残などのチアノーゼ性心疾患(398例)まで幅広く診ています。
学校心臓検診で発見された心室性期外収縮、WPW症候群や、川崎病後冠動脈障害、弁膜症、心筋症などの管理治療も行っています。



左から：稲熊医師、坂崎医師、松岡医師、鶏内医師

県立尼崎病院
小児循環器内科科長

坂崎 尚徳

日本小児科学会専門医
日本小児循環器学会専門医